

(様式1)

令和6年度自己評価表(案)

愛媛県立丹原高等学校
学校番号(13)

教育方針	人権を尊重し、個性と能力を伸ばす教育活動を展開する中で「生きる力」を育て、知・徳・体の調和のとれた個性豊かな人材の育成に努める。	重点目標	生徒一人一人の豊かな学びの実現 ～よりよい進路選択と自己実現のために～
------	--	------	-------------------------------------

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
教科指導	教科指導の充実	生徒一人一人に応じた分かりやすく工夫した授業を 実践する。 ICTや生徒の活動を取り入れ、観点別評価による 指導と評価の一体化が実現するよう授業改善に努 める。 〔分かりやすく工夫した授業:AB評価〕 A:90%以上、B:89~80%、C:79~70%、 D:69~60%、E:60%未満 〔ICTや生徒の活動を取り入れた授業:AB評価〕 A:90%以上、B:89~80%、C:79~70%、 D:69~60%、E:60%未満	B	〔学校評価アンケートにおけるICTを活用した授業:AB評 価〕 生徒89%、保護者91%、教職員97% 〔学校評価アンケートにおける授業の分かりやすさ:AB評 価〕 生徒92%、保護者82%、教職員93% ICTの活用については全校で浸透してきている。授業の分 かりやすさについて、保護者の評価が改善された。	ICTを活用できる生徒や教員が増えており、今後も 有効活用したい。AB評価の内訳はAの割合が増え ているため、次年度は更にその比を上げたい。 また、ICTの活用が学力の向上につながるよう努め たい。
	教職員の資質・授業力の向上	校内研修会、学校訪問、自己研修等に5回以上参加 し、指導力及び授業力の向上を図る。 〔校内研修会、学校訪問、自己研修等への参加回 数〕 A:5回以上、B:4回、C:3回、D:2回、 E:2回未満	A	〔校内研修会実施回数〕20回実施 人権・同和教育延べ10回 各教科4回(理、保体、英、農) その他6回 新教育課程の目標、評価基準に応じた教科及びホーム ルーム活動等の研修を行い、授業力の向上につながった。	教科における授業反省会がコメントの交換のみと なった場合もあった。授業批評会を開催し、対面 での情報交換を実施するなど振り返りの充実を図りた い。
	探究活動の充実	総合的な探究の時間(t-time)の充実を図り、生徒 自ら課題を発見、探究し、その成果を発表する活動 を推進する。 〔総合的な探究の時間:生徒AB評価〕 A:90%以上、B:89~80%、C:79~70%、 D:69~60%、E:60%未満	A	〔総合的な探究の時間:生徒AB評価〕99% 探究活動の方法を学ぶオリエンテーション・プログラム を経て、生徒自身がコミュニケーション能力の向上や異学 年交流の効果を感じながら、丹原・西条地区をフィールド とした探究活動に積極性を持って臨んでいる。	実施日(月曜日)が休日や休校となることがあ り、1学期の授業時数の確保ができなかったため、 分野選択・個別探究への移行が遅くなった。来年度 は授業時数の確保に努め、1学期中の分野選択を進 めたい。
	読書活動・資格検定の充実	朝読書を充実させ、読書活動の充実を図る。 商業・英語・数学・農業検定等の合格者200名以上、 2級以上の合格者の増加を目指す。 〔読書活動:AB評価〕 A:90%以上、B:89~80%、C:79~70%、 D:69~60%、E:60%未満 〔検定合格者延べ人数〕 A:200名以上、B:199~180名、 C:179~160名、D:159~140名、 E:140名未満	B	〔学校評価アンケートにおける読書活動:AB評価〕 生徒97%、保護者88%、教職員97% 〔検定合格者延べ人数〕 197名 学期ごとに読書週間を2週間程度設定し、実施した。読 書活動については生徒と教職員の評価が上昇し、保護者の 評価は下がった。また、学級文庫の設置や図書館の本の整 備を通して、充実した読書活動が実施できた。 英語検定は年間3回中2回で2級10名、準2級14名合 格、商業関係検定は延べ155名合格し、成果を上げた。	今年度の具体的目標は達成できているが、保護者 への読書活動に関するアピールが足りないようであ る。改善に努めたい。 資格の取得自体が目的とならないよう、知識や技 術の定着に加え、その活用を意識させる指導に努め たい。また、資格取得の挑戦が新たな学びのモチ ベーションにつながるような指導に努めたい。
進路指導	キャリア教育の充実	進路ガイダンス、農家実習などを通して体験型の キャリア教育を推進する。 進路情報を適切に提供するとともに、生徒・保護者 が端末で求人情報を検索できる「就サポ」を導入す る。 〔キャリア教育:AB評価〕 A:90%以上、B:89~80%、C:79~70%、 D:69~60%、E:60%未満 〔進路情報提供:AB評価〕 A:90%以上、B:89~80%、C:79~70%、 D:69~60%、E:60%未満	C	〔学校評価アンケートにおけるキャリア教育:AB評価〕 生徒66%、保護者77%、教職員79% 進路ガイダンスや農家実習等を通して、望ましい職業観 を育成できた。 求人情報検索システム「就サポ」の導入により、生徒・ 保護者が求人情報を迅速かつ確に入手できるようにな った。	1・2年生対象の進路ガイダンス(年2回)を、 より「体験」を重視した内容へと改め、職業に対す る生徒の関心を高められるよう工夫したい。 「夢ナビ」等の動画サービスを有効に活用させる ことで、生徒の主体的な進路選択を促したい。 担任と連携し、キャリアパスポートを活用した学 習の「振り返り」を充実させたい。

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

進路指導	個別指導の充実と進路実現	一人一人の進路希望に応じて丁寧な指導を行い、国公立大学15名・松山大学15名合格、進路決定率100%を目指す。 〔国公立大学合格者数〕 A:15名以上、B:14~13名、C:12~11名、D:10~9名、E:9名未満 〔松山大学合格者数〕 A:15名以上、B:14~13名、C:12~11名、D:10~9名、E:9名未満 〔進路決定率〕 A:99%以上、B:98~96%、C:95~93%、D:92~90%、E:90%未満	A 〔学校評価アンケートにおける進路情報提供:AB評価〕 生徒92%、保護者75%、教職員97% 〔国公立大学合格者数〕 22名 〔松山大学合格者数〕 25名 〔進路決定率〕 100% 就職・進学用の進路関係図書を拡充させ、生徒の積極的利用を促した。 一人一人の進路希望に応じた個別指導を推進し、成果を上げた。	引き続き進路関係図書の整備に努めるとともに、学校ホームページ等を通じた保護者向けの情報発信にも力を入れていきたい。 3年生の志望理由書の作成に、ベネッセの対話型オンラインサポートシステム「小論文・志望理由書ナビ」を導入し、指導の効率化を図る。 今年度と同様に、国公立大学15名・松山大学15名合格、進路決定率100%を目標としていきたい。
生徒指導	生徒の健全育成	欠席率2.5%以内、1か年皆勤率50%以上を目指す。公平な指導に努め、校則が時代に合ったものになるよう適宜検討する。 挨拶ができる生徒100%を目指す。 〔欠席率〕 A:2.5%以内、B:2.6~3.0%、C:3.1~3.5%、D:3.6~4.0%、E:4.0%以上 〔皆勤率〕 A:50%以上、B:49~40%、C:39~30%、D:29~20%、E:20%未満 〔公平な指導:AB評価〕 A:90%以上、B:89~80%、C:79~70%、D:69~60%、E:60%未満 〔挨拶:AB評価〕 A:90%以上、B:89~80%、C:79~70%、D:69~60%、E:60%未満	B 〔欠席率〕2.7%（2学期末現在） 〔皆勤率〕29.2%（2学期末現在） 〔学校評価アンケートにおける公平な指導:AB評価〕 生徒80%、保護者83%、教職員97% 〔学校評価アンケートにおける挨拶:AB評価〕 生徒94%、保護者91%、教職員97% 欠席率は昨年度と比べると減少している。一部の生徒については、学校を安易に休むことに対して抵抗感がない。また、皆勤率は減少しており、欠席数も一部の生徒に集中しているのではなく、不特定である。今までの生徒のように「皆勤」を目指そうという意識の生徒が減少したように感じる。 身だしなみ指導における公平な指導の評価は、保護者、生徒共にほぼ昨年度と同数になっている。生徒自身が身だしなみ指導に対して納得と答えている。 挨拶については、大半の生徒が自主的に気持ちの良い挨拶ができていくと実感している。また、保護者からのAB評価は大幅に増加している。	安易に欠席をする生徒に対して、個別に指導していきたい。 長期欠席については、悩みを抱える生徒に早期に気付けるよう、更に教職員間での情報共有を深めたい。 身だしなみについては、校則検討委員会を年に1回以上開催し、時代に即した校則になるよう、適切に検討していきたい。また、身だしなみ指導についても公平な指導の実施を継続したい。身だしなみ指導を各学期1回とし、生徒による相互点検を取り入れるなど、身だしなみについて日頃から考えさせる指導を行いたい。 挨拶については、生徒自らが自主的に気持ちの良い挨拶ができるように指導していきたい。 ルールメイキングプロジェクトを支援することで、生徒の健全育成を促進したい。
	交通安全指導の充実	年7回の交通指導、年3回の合同登校指導を行い、生徒の交通安全意識の高揚を図る。交通事故・交通違反ゼロを目指す。 〔交通指導・登校指導回数〕 A:10回以上、B:8回、C:6回、D:4回、E:4回未満 〔交通安全遵守:生徒AB評価〕 A:90%以上、B:89~80%、C:79~70%、D:69~60%、E:60%未満 〔交通事故件数〕 A:0件、B:1~3件、C:4~6件、D:7~9件、E:10件以上	A 〔交通指導・登校指導回数〕 11回 〔交通事故・交通違反件数〕 0件 〔交通安全遵守:生徒AB評価〕 生徒98%、保護者93%、教職員100% 交通指導、登校指導、交通安全講話を計画的に実施しており、生徒の交通安全やヘルメット着用に関する意識は高い。今年度、愛媛県警察本部長・愛媛県交通安全協会会長連名表彰で表彰された。交通事故の重大な事案は0件であった。軽微な事故は数件あったが、内容的には自動車の一時停止違反などによるもらい事故であった。雨の日もカッパの着用が徹底されており、傘さし運転をする生徒はいない。	引き続き交通指導・登校指導を継続し、交通安全講話を年1回実施していくことにより、交通安全に関する意識の高揚を図りたい。登下校中の交通事故・交通違反ゼロを目指したい。今年度、自転車運転に関する一部法律の変更により、「ながらスマホ運転」の罰則の強化がなされた。全校生徒に対しての啓発活動を生徒を中心に行っていききたい。
特別活動	学校行事の活性化	生徒自らが企画・運営する学校行事を実現し、生徒が主役となって活躍する機会を増やすことで「学校行事の充実」のAB評価95%以上を目指す。 〔学校行事の充実:生徒AB評価〕 A:90%以上、B:89~80%、C:79~70%、D:69~60%、E:60%未満	A 〔学校評価アンケートにおける学校行事の充実:生徒AB評価〕 生徒91%、保護者88%、教職員100% 生徒会役員を中心に、生徒が主体となって運動会や丹高祭、グループマッチ等の学校行事に取り組んだ。特に丹高祭では、生徒自らイベントを企画し、大いに盛り上げた。	引き続き生徒自らが企画・運営する学校行事を実現し、生徒が主役となって活躍する機会を増やすことで「学校行事の充実」のAB評価95%以上を目指したい。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。

特別活動	部活動・ボランティア活動の活性化	部活動加入率90%以上、県総体60名以上、高文祭15名以上、四国大会以上の出場を目指す。 ボランティア活動について、寄せ植え講習会200名以上、その他100名以上を目指す。また、丹原七夕夜市やルールメイキングプロジェクトなど生徒主体の活動を推進する。 〔部活動加入率〕 A:90%以上、B:89~80%、C:79~70%、D:69~60%、E:60%未満 〔県総体参加者数〕 A:60名以上、B:59~50名、C:49~40名、D:39~30名、E:30名未満 〔高文祭参加者数〕 A:15名以上、B:14~13名、C:12~11名、D:10~9名、E:8名未満 〔ボランティア活動参加者数〕 A:300名以上、B:299~250名、C:249~200名、D:199~150名、E:150名未満	A 〔部活動加入率〕90% 〔県総体参加者数〕60名 〔高文祭参加者数〕20名 〔ボランティア活動参加者数〕600名 寄せ植え講習会380名 丹原七夕夜市 200名 その他 120名 ・四国大会出場者数延べ9名 女子剣道部 個人1名 団体7名 総合運動部(柔道)1名 ・全国大会出場者数1名 スポーツライミング部1名	引き続き部活動加入率90%以上、県総体60名以上、高文祭15名以上、四国大会以上の出場、ボランティア活動の活性化を目指したい。四国大会以上の出場についても、今年度以上の成果を目指したい。
相談・人権	教育相談体制の充実	教育相談アンケート(6・9・2月)及び学校生活アンケート(7月・12月)を実施するとともに、毎学期個人面談週間を設け、きめ細やかに対応する。 〔相談できる:AB評価〕 A:90%以上、B:89~80%、C:79~70%、D:69~60%、E:60%未満	B 〔学校評価アンケートにおける相談できる:AB評価〕 生徒92%、保護者82%、教職員97% 教育相談アンケートを実施して実態を把握し、必要な内容を教職員間で共有して対応した。また、アンケート実施後には約1か月間の個人面談週間を設けた。	アンケート、個人面談月間、教職員の情報共有を実施し、きめ細やかな対応をしたい。状況に応じて不登校生徒支援委員会や特別支援教育委員会を開き、一人一人の生徒に応じた細かい支援に努めたい。
人権教育の推進・いじめの防止	人権教育の推進・いじめの防止	「丹高人権宣言」を浸透させ、啓発プリントやチラシ等を適宜配布することで、人権意識の高揚を図る。 「いじめ対応」のAB評価100%を目指す。 〔人権教育:AB評価〕 A:90%以上、B:89~80%、C:79~70%、D:69~60%、E:60%未満 〔いじめ対応:AB評価〕 A:90%以上、B:89~80%、C:79~70%、D:69~60%、E:60%未満	B 〔学校評価アンケートにおける人権教育:AB評価〕 生徒94%、保護者91%、教職員97% 〔学校評価アンケートにおけるいじめ対応:AB評価〕 生徒93%、保護者83%、教職員97% いじめ防止基本方針を改訂し、警察との連携や重大事態への備えなど、いじめへの組織的な対応を強化した。 アンケートにおける評価では、保護者の評価が大幅に改善された。教職員・生徒は校内外の研修会・講演会等に多数参加し、人権意識の高揚に努めることができたが、保護者の参加が少なかった。	人権教育といじめ対応の取組について、保護者の評価が昨年に比べ大幅に改善された。今後はより一層学校の取組をホームページや「丹高だより」などで保護者に周知していきたい。 また講演会や公開授業、研修会への積極的参加を促し、人権問題について家庭で話し合うように呼び掛け、保護者啓発を進めたい。
学校安全	情報セキュリティ・情報モラルの遵守	情報セキュリティ研修等を通して、教職員の情報セキュリティへの意識を高める。 1年生の1人1台端末オリエンテーションを充実させ、端末の適切な取扱いを徹底する。 〔情報セキュリティ・モラル:AB評価〕 A:90%以上、B:89~80%、C:79~70%、D:69~60%、E:60%未満	A 〔学校評価アンケートにおける情報モラル:AB評価〕 生徒97%、保護者92%、教職員97% 1人1台端末は導入から4年が経過し、経年劣化のためか故障が増加し、修理にも時間が掛かっている。	情報セキュリティ研修において、資料を分かりやすく提示し、教職員の意識を高めたい。 1年生の「1人1台端末オリエンテーション」を充実させ、端末の適切な取扱いについて指導したい。
健康安全・校内美化の推進	健康安全・校内美化の推進	感染症対策及び熱中症対策を徹底する。 日常の清掃時間内いっぱい活動し、校内の美化に努める。 〔感染症等対策:AB評価〕 A:90%以上、B:89~80%、C:79~70%、D:69~60%、E:60%未満 〔校内美化:AB評価〕 A:90%以上、B:89~80%、C:79~70%、D:69~60%、E:60%未満	B 〔学校評価アンケートにおける感染症等対策:AB評価〕 生徒94%、保護者86%、教職員94% 〔学校評価アンケートにおける校内美化:AB評価〕 生徒89%、保護者90%、教職員72% 保健委員会の生徒がAEDについて探究し、その成果を学校保健委員会や全校生徒の前で発表するなど活発に活用した。 保健だよりやデジタルサイネージを活用し、感染症や熱中症の予防を啓発した。	感染症対策等について、保護者の評価が比較的低いので、学校の取組を学校ホームページや保健だよりで周知していきたい。 年間を通じて校内の美化に努めるとともに、保健だよりの発行やデジタルサイネージの活用を継続したい。 今後とも、平素の清掃活動において時間いっぱい、丁寧に取り組むよう指導したい。

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

<p>学校安全</p>	<p>防災教育の推進</p>	<p>学校防災教育実践モデル地域研究事業の指定を受けたことを契機に、実践的な避難訓練や体験的防災活動、危機管理マニュアルの見直し等に取り組み、防災意識の高揚と実践力の育成を図る。 〔防災教育:AB評価〕 A:90%以上、B:89~80%、C:79~70%、D:69~60%、E:60%未満</p>	<p>A 〔学校評価アンケートにおける防災教育:AB評価〕 生徒99%、保護者95%、教職員97% 管理責任者による校内の安全点検等のほか、新居浜市防災センターでの体験学習、避難所レイアウトを考えるワークショップ、東予高校との防災ベンチ共同製作など、年間を通して様々な体験的防災活動に取り組むことができた。特に「防災DAY」では、自衛隊、西消防署、危機管理課などの関係機関と連携し、近隣の小中学校、高校と協働的な活動に取り組むことができた。予告なし避難訓練や縦降機体験、松山工業高校出前授業、自衛隊ロープワーク体験、豚汁の吹き出し支援体験、希望者による避難所開設訓練及び学校に泊まろうプロジェクトなどを実施し、防災意識を高めることができた。 危機管理マニュアルについては、対応チャートの充実、写真や図の使用、事前・発生時・事後をカラーで明示、避難所での学校施設利用計画の具体化等を行うなど、より丹原地域や本校の現状に合わせ、ビジュアルで具体的な内容になるように全面改訂を行った。</p>	<p>今後も予告なし避難訓練を実施し、火災発生場所、不審者対応等、様々な状況を想定した実践的な避難訓練となるよう工夫していきたい。 「防災DAY」の内容は検討する必要があるが、今後も継続して実施し、防災意識の向上につながる活動を生徒に体験させたい。 継続してモデル地域内の学校や自治体、関係機関と連携して防災教育を進め、生徒や保護者、教職員の防災意識を向上させ、生徒の主体性に基づいた活動を継続していきたい。 学校安全計画・危機管理マニュアルは毎年見直し、より充実した内容となるよう更新を続け、いざというときに行動できるよう、今後も生徒や教職員へ危機管理マニュアルの周知と理解を図りたい。</p>
<p>農業教育</p>	<p>地域との交流</p>	<p>苗販売や菊花展において、一般参加者総計1000名以上を目指す。また、花育、食育やリヤカー販売など、地域と共に教育活動を推進する。 〔農業関係行事来校者数〕 A:1000名以上、B:999~900名、C:899~800名、D:799~700名、E:700名未満 〔保護者や地域との交流:AB評価〕 A:90%以上、B:89~80%、C:79~70%、D:69~60%、E:60%未満</p>	<p>B 〔農業関係行事来校者数〕 868名(苗販売250名、菊花展618名) 〔学校評価アンケートにおける保護者や地域との交流:AB評価〕 生徒92%、保護者90%、教職員94% 草花部門による多肉植物・花の寄せ植え講習会は16回実施し、参加者は319人であった。地域との交流が深められ、園芸科の活動をアピールできた。リヤカー販売は実施できなかった。</p>	<p>苗販売や菊花展、農家実習、花育活動、ワクワクサタデースクール等の諸行事を実施することにより、地域や保護者に丹原高校の魅力を発信したい。</p>
<p>農業教育</p>	<p>GAP認証・農業クラブ・台湾との交流の活性化</p>	<p>グローバルGAP(ブドウ)・県GAP5品目の認証を実現する。 農業クラブでは、意見発表会校内大会では全クラス、プロジェクト発表会校内大会では全専攻班が発表することで、活動の活性化を図る。 台湾との交流を推進し、販売研修を成功させる。 〔GAP認証〕 A:5品目以上、B:4品目、C:3品目、D:2品目、E:1品目 〔農業クラブ校内大会発表率〕 A:100%、B:99~90%、C:89~80%、D:79~70%、E:70%未満 〔台湾研修〕 A:現地に派遣、B:輸出、C:オンライン交流、D:台湾学習、E:研修なし</p>	<p>B 〔GAP認証〕 グローバルGAP認証継続(ブドウ) 県GAP認証継続(水稲・イチゴ) 〔農業クラブ校内大会発表率〕100% 意見発表の部 第1回9人、第2回9人 プロジェクト発表の部 第1回4班 第2回3班 ・全国高校生フラワーアレンジコンテスト出場 ・農業クラブ意見発表分野Ⅱ類四国大会出場 グローバルGAP認証を7年連続取得し、台湾輸出・台湾研修も実現した。 環境制御温室を有効に活用し、農場管理の省力化を実現した。</p>	<p>グローバルGAP認証、県GAP認証を継続しながら、GAP学習を充実させたい。 農業クラブ活動では、日頃の学習を探究学習として発展させ、意見発表会校内大会では全クラス、プロジェクト発表会校内大会では全ての専攻班が発表することで、活動の活性化を図りたい。</p>
<p>業務改善等</p>	<p>ホームページ等の充実</p>	<p>ホームページアクセス数1日350件以上を目指すとともに、マチコミやTeamsを活用し、情報発信を図る。YouTubeの充実を図る。 〔ホームページ1日平均アクセス数〕 A:350件以上、B:300~349件、C:250~299件、D:200~249件、E:200件未満 〔マチコミ加入率〕 A:100%、B:99~90%、C:89~80%、D:79~70%、E:70%未満</p>	<p>A 〔ホームページアクセス数〕 1日平均406件(2月末現在) 〔マチコミ加入率〕 100% 〔学校評価アンケートにおけるHP・マチコミ・Teams等での情報発信AB評価〕 生徒95%、保護者86%、教職員94% 学校行事の様子、生徒の表彰、新聞等マスコミで取り上げられた内容については学校ホームページに掲載をし、生徒、保護者、教職員に情報発信をした。また、マチコミでは、学校行事の案内や緊急連絡をした。台湾研修の活動報告は、丹高公式YouTubeで公開した。</p>	<p>学校ホームページへのアクセス数の最大が1,641件であった。保護者等の学校への関心の高さが伺われる。今後とも、全校教職員の協力で更新頻度を高め、日々の学校生活や学校の魅力が伝わる内容にするなど、ホームページの更なる充実に努めたい。 マチコミは、緊急連絡のツールになる。特に、新入生の保護者には合格者登校日を通して直接加入を勧め、加入率100%を維持したい。 丹高YouTubeや他のSNSの有効な活用を検討し、学校魅力化の発信の推進をしたい。</p>

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

業務改善等	働き方改革の推進	<p>閉庁日を4日設けるほか、年次休暇等の取得を促し、休みやすい環境を整える。時間外勤務月平均80時間以上の教職員ゼロを目指す。</p> <p>〔時間外勤務80時間以上教職員数〕 A:0名、B:1~3名、C:4~6名、D:7~9名、E:10名以上</p> <p>〔働き方改革:教職員AB評価〕 A:90%以上、B:89~80%、C:79~70%、D:69~60%、E:60%未満</p>	C	<p>〔時間外勤務80時間以上教職員数〕 6名(4~2月平均)、6名(12月)</p> <p>〔学校評価アンケートにおける働き方改革AB評価〕 教職員69%</p> <p>〔学校評価アンケートにおける部活動活動時間・休養日AB評価〕 生徒89%、保護者86%、教職員100%</p> <p>働き方改革に関するアンケートや面談を実施した。職員会議や職員朝礼でのペーパーレス化、企画委員会や職員朝礼の回数の削減、ノー残業デーの設定、ノー部活動デーや部活動の再編、カラー印刷機等の業務支援機器の導入など、教職員の働き方への意識改革や業務の効率化に取り組んだ。</p> <p>講師の確保ができていない教科には、担当する授業時間数では負担を掛けることとなった。</p>	<p>業務時間外の業務をできる限り削減し、教職員のワーク・ライフ・バランスの向上に努める。</p> <p>人員の確保、業務の精選及び平準化を図るとともに、時間外勤務が多い教職員と面談を行い、時間外勤務80時間以上の教職員数ゼロを目指したい。</p>

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。